

都市再生整備計画(第2回変更)

うつのみやさんのうちく
宇都宮山王地区

とちぎけん うつのみやし
栃木県 宇都宮市

平成20年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	栃木県	市町村名	宇都宮市	地区名	宇都宮山王地区	面積	6.7 ha
計画期間	平成 17 年度 ~ 平成 19 年度	交付期間	平成 17 年度 ~ 平成 19 年度				

目標 大目標:誰もが安心して快適に住み続けられるゆとりある住生活の実現 ・市営住宅の建替えにより、多様な住宅ニーズに対応した良好な居住環境を形成する。 ・開かれた公園や広場の設置により、地域住民のコミュニティ形成の場を確保するとともに、住環境の向上を図る。
目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 ・本地区は、本市中心部より北に約10kmに位置し、北の玄関口である東北自動車道と日光・宇都宮道路の宇都宮インターチェンジに近接して存在する、市街化調整区域に造成された住宅市街地である。 ・この地区は、バスなどの公共交通機関やインターチェンジから連絡する宇都宮北道路などにより本市中心市街地へのアクセスは良く、また、周辺地域には、日光街道(国道119号線)に沿った集落のほか、公共施設として、約1km北東に小学校や地区市民センター、JA支所、保育園等が整備されているなど利便性の良い住宅市街地を形成している。
課題 ・本地区の小学校区においては、人口が平成元年度に比較し約17%減少しており、特に年少人口は約47%の減少となっている(H元年 1,110人 → H16年 592人)ことから、少子高齢化の進展に伴う弊害を回避し、地域活力の維持・向上を図るため、居住環境の整備などによる定住促進を進める必要がある。 ・地域住民のコミュニティの形成や地区の自然環境の保全及び住環境の向上を図るため、拠点施設となる公園や広場を整備する必要がある。 ・誰もが安心して快適に住み続けられるよう、地区の安全を確保する必要がある。
将来ビジョン(中長期) <宇都宮市総合計画> ・全ての市民が安心して暮らすことのできる、「安全で快適なまちづくり」を目指す。 <宇都宮市住宅基本計画> ・誰もが安心して快適に住み続けられるゆとりある住環境の実現

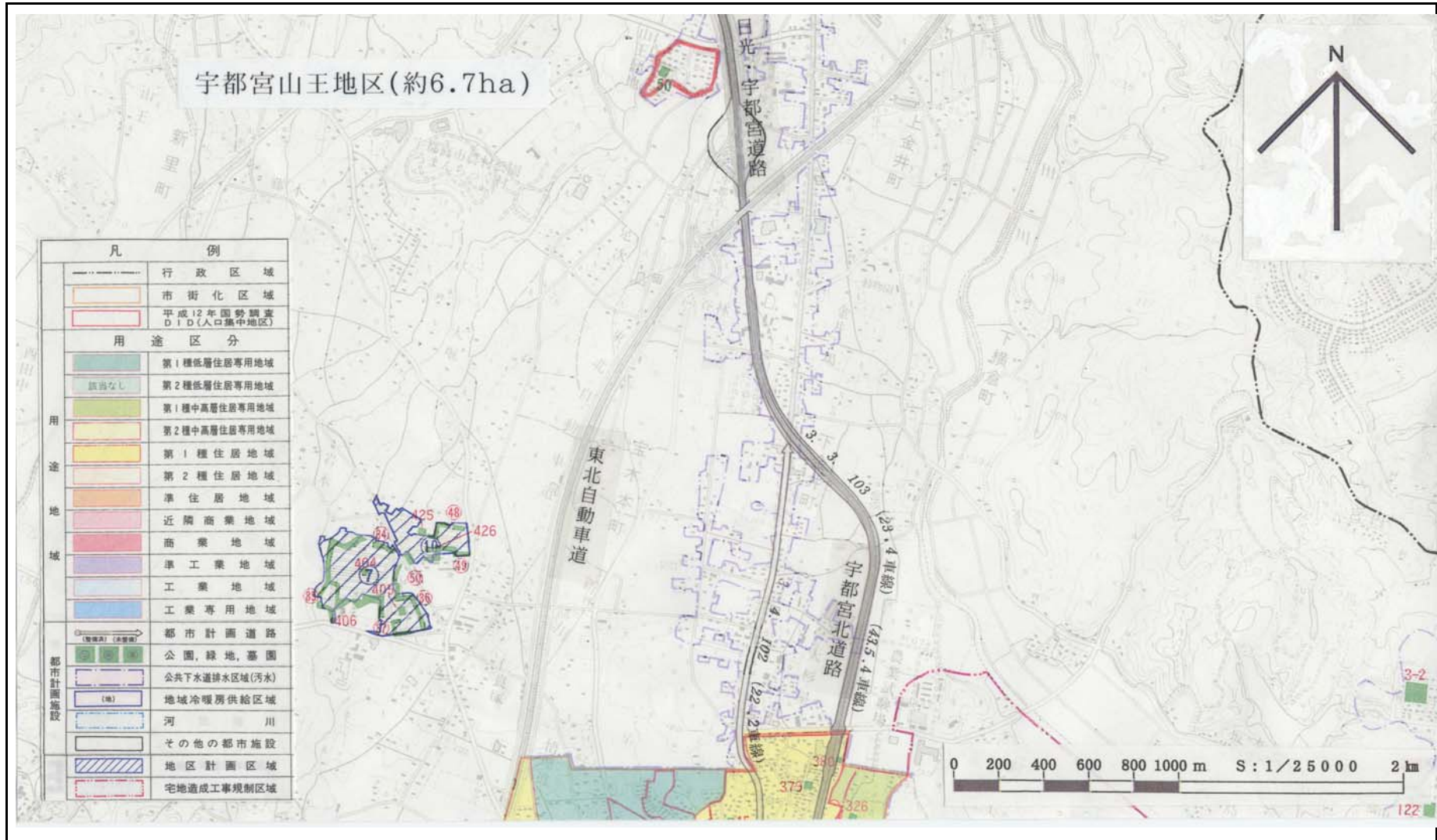
目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
居住人口	人	山王市営住宅の居住人口	居住人口を増やし、世代間の交流を高めて地区を活性化する。	1,080	H16	1,350	H19
公共施設満足度調査	人/日	公園広場の利用者数	交流の場の提供や住環境を向上させ、居住する満足度を高める。	30	H16	60	H19
地域コミュニティの向上	回/年	地域に関する情報提供の回数	情報提供により、地域コミュニティの向上を図り、安全な住環境を保持する。	0	H16	3	H19

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・山王市営住宅の建替(15～17号棟 3棟106戸)・整備により、高齢者向けのシルバーハウジングプロジェクト住宅や身障者世帯向け住宅の供給及び若年世代等の多様な住宅ニーズに対応した良質な居住水準の住宅を供給することにより、定住人口を増加させ、地域活力の維持・向上に寄与する。</p>	<p>公営住宅整備(山王団地)[基幹事業] 地域生活基盤施設(山王団地)[基幹事業]</p>
<p>・都市公園を整備し、地域住民のコミュニティの場を提供するとともに、自然環境の保全や住環境の向上を図る。</p>	<p>公園(山王団地)[基幹事業]</p>
<p>・地域住民の防犯に係る啓蒙用文書等を作成し配布することや、地域内の駐車車両に対する啓発表示板を作成し設置することで、誰もが安全に安心して快適に住み続けられる住環境の保持を図る。</p>	<p>まちづくり活動推進事業(防犯啓蒙事業)[提案事業] まちづくり活動推進事業(住環境維持啓発事業)[提案事業]</p>
<p>その他</p>	

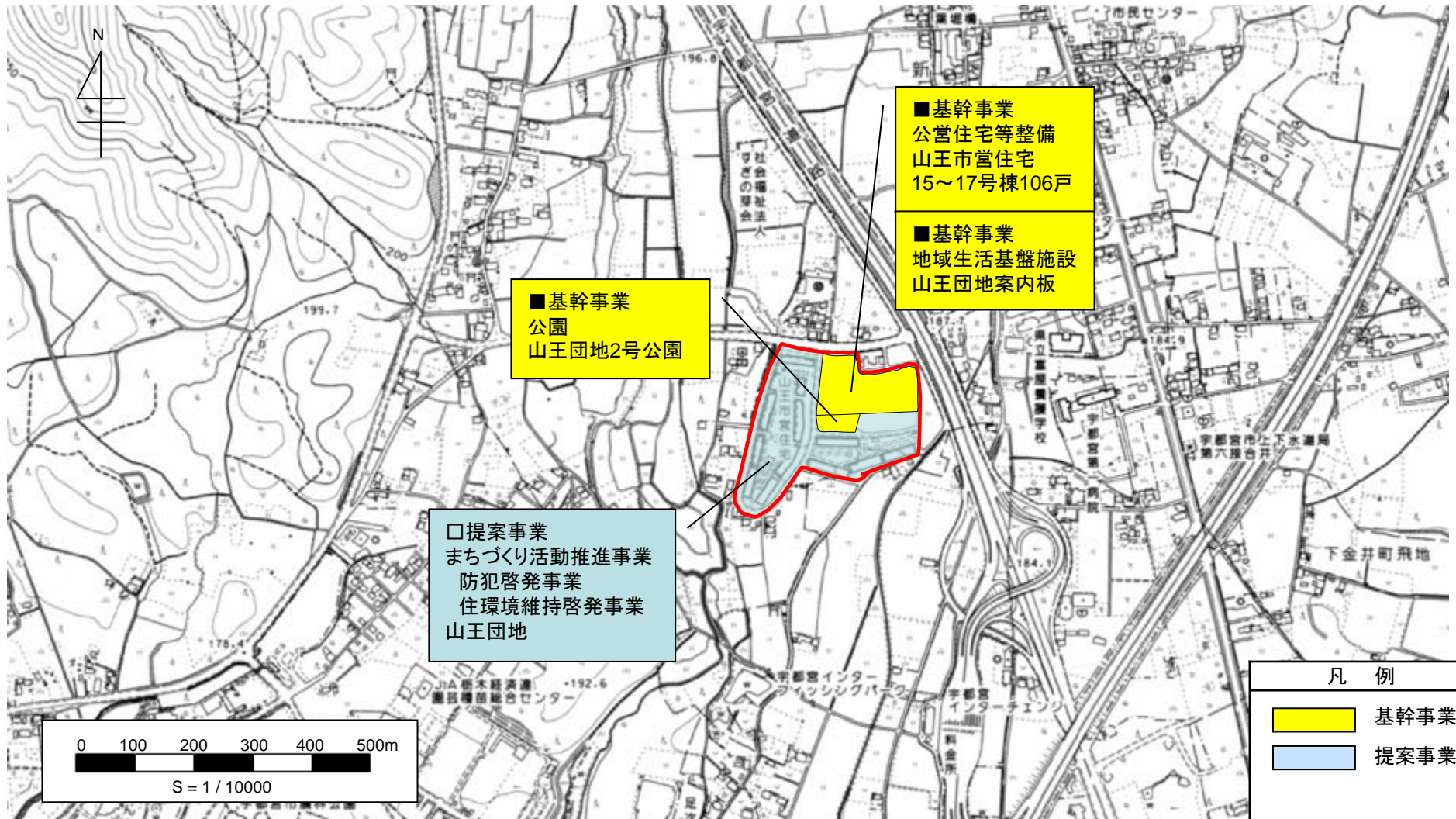
都市再生整備計画の区域

宇都宮山王地区(栃木県宇都宮市)	面積	6.7 ha	区域	徳次郎町の一部, 宝木本町の一部
------------------	----	--------	----	------------------



うつのみやさんのうち く とち ぎけんうつのみやし
 宇都宮山王地区(栃木県宇都宮市) 整備方針概要図

目標	誰もが安心して快適に住み続けられるゆとりある住生活の実現を目指し、市営住宅や公園の整備等を実施する。	代表的な指標	居住人口 (人)	1080 (16年度) →	1350 (19年度)
			公共施設満足度調査 (人/日)	30 (16年度) →	60 (19年度)
			地域コミュニティの向上 (回/年)	0 (16年度) →	3 (19年度)



凡 例	
	基幹事業
	提案事業